

着用実験による浴衣地の地直し処理効果の検討

The Shrinking Effect Observed through Wearing Test of Cotton Bathrobe Cloths

植田 桜

Sakura Ueta

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 修士課程

キーワード : 木綿浴衣地, 通気性, 着用実験

Key words : Cotton bathrobe cloths, Air permeability, Wearing test

1. 研究目的

かつての日本人は、和服を着用することが普段着として当たり前のことであった。しかし西洋の文化が多く取り入れられるようになってから日本の文化である和服の日常的着用は減少してきている。そのため普段着として着用する日本人は減少している。

近年、日本人が和服を着用する機会としてあげられるのが、結婚式、成人式、入学式、卒業式、葬式などの慶事や弔事の場面での着装である。また一方で、夏のイベントであるお祭りや花火大会での浴衣の着用は、毎年世代を超えて着装する機会が多く、若者にとっては特に着る機会が増えたと考える。

グローバルの発展にともない、外国製品の輸入が増加し新たな文化が進化を遂げていっている。新しく発展していくことも大切であるが、日本の文化も大切に受け継いでいくこと、守っていくことも必要である。これからの日本における自国の文化を根強く残していくためには、若者の和服の着用機会を大切にしていくなすべきであると考えられる。

先に述べた通り、若者の一番多いとされる和服の着用場面は夏のイベントごとでの浴衣の着用である。このことから本研究では、着物の中でも「浴衣」の着用を取り上げ、考察することにした。

具体的には、若者に浴衣を着用してもらうためにはどうしたらいいのだろうか。デザインの良さや価格の安さ、着用のしやすさ、着心地などが考えられる。デザインや価格についてはすでに言及されている一方、着心地の良さは見落とされているのが現状である。

浴衣の着心地は今よりもっと涼しく着心地がよいものに変化させていかないといけない。しかしながら過去の事例で浴衣の通気性について研究し

ている論文は少ない。呑山氏や田村氏による「和服の温熱特性に関する研究」¹⁾ではサーマルマネキンにより、和服の素材別に女物単衣長着を製作し、着衣の熱抵抗について検討して、熱抵抗が通気性との関わりがあるということの結果として出しているが、通気性、涼しさに対する研究は進んでいない。

本研究では、浴衣の通気性について着用実験やサーマルマネキンでの測定結果から、人が涼しい、心地がよいと感じる浴衣地の検討を行う。第一として試験方法の選択、製作など実験を始めるに当たっての準備や計画を立てる必要があると考える。

2. 研究実施内容

< 方法・準備 >

1-1. 試験布の調達

浴衣は主に夏に着装するため、汗を吸収し肌に優しい素材が良いとする。木綿 100% の反物を 3 反、条件をそろえるために前処理を行っていないものを問屋で購入した。この 3 点の違いは色、柄、値段、織り方である(図 1. 2. 3)。



図 1 木綿浴衣地 A



図 2 木綿浴衣地 B



図 3 木綿浴衣地 C

1-2 浴衣の作成

「図でわかる基礎きもの」²⁾の教科書を活用し基本的な浴衣を作成した。縫い糸も木綿100%で統一する。また寸法は日本人女性の平均的なサイズである身長158cmに合わせて作製した。

1-3 環境条件

環境条件は気温 $20 \pm 0.5^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $50 \pm 10\% \text{RH}$ 、気流 $0.15 \pm 0.05 \text{m/set}$ で行う。

1-4 着装条件

着装条件は浴衣に腰紐、伊達締め、半幅帯を使い、文庫結びによって着用した。着衣方法は、え

り足の抜き寸法、肩山位置、胸元の合わせ位置、裾上がり寸法、身やつ口の閉じ状態など、できる限り一定にする。浴衣の下に着用する下着は一般的に使われる胴身ごろ綿100%、裾身ごろポリエステル100%のスリップ状の下着を着用する。

1-5 測定

材料学的な側面で布を測定する際、必要な項目は①組成②織物名③組織④厚さ⑤平面重⑥見かけの比重⑦密度⑧糸の太さ⑩剛軟度⑪防しわ度⑫ドレープ係数⑬含気量の13項目である。

サーマルマネキンを活用し、衣服を着用したときの保温性(熱抵抗)を測定する。保温性を測定することにより、浴衣の涼しさを評価していく。また、体の温度を測る際は、サーミスタ温度計を用いる。

3. 今後のまとめと課題

今回は綿100%のみ実験の試料として使用したが浴衣の素材には麻も多く使われていたり、最近では合成繊維でできている若者でも手ごろな価格で買えるものの販売が増加している。そのため、現代よく使われている合成繊維の浴衣と綿や麻の浴衣の通気性の違いを検討していくことが必要であると考えられる。

付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所大学院生研究所(B)DB2805により研究助成を受けた。

参考文献

- 1) 呑山 委佐子, 田村 照子
和服の熱抵抗に及ぼす和服素材の効果
- 2) 阿部 栄子
図でわかる基礎着物